

8月30日に2学期の始業式が行われました。私からは、9月1日から12日までの教育活動等の方法や条件などについて生徒たちに説明をするとともに、13日以降もこうした状況が継続される可能性があること、また、与えられた環境を受け入れつつ、安全・安心を確保しながら可能な限り教育活動を継続していきたいと考えていることをお話させていただきました。人事を尽くして天命を待つ。生徒たちには、コロナに負けることなく、やれるだけのことはやり、悔いの残らない納得のいく、2学期になることを心から願っています。

9月1日は全学年がオンライン授業、2日から学年別の登校によるクラス半数での授業と自宅でのオンライン授業が始まりました。先生たちは、生徒の学業に遅れが生じるのではないように、それぞれ工夫を凝らしながら授業に取り組んでいました。特にパソコンに不慣れな先生たちは、この機会に何とかICTを駆使しようと必死に努力していました。こうした状況下では、教職員が一致団結することが何よりも生徒にとって大切であり、そうした取組の成果が生徒たちの学業の向上に直接結びつくものと思います。置かれた状況は、教職員よりも生徒たちの方が不安であり大変であるとの認識を持ち、教職員一丸となり、この不測の事態を乗り越えていきたいと思っています。

9月9日に本県の緊急事態宣言が延長され9月30日までとなりました。9月16日に六国祭（体育祭）の開催を予定していましたが、延期困難のため、県の通知に従い苦渋の決断により中止としました。夏休みを通して準備や練習に取り組んできた生徒たちにとっては、正に断腸の思いであったと思います。しかし、開校当初より引き継がれてきた体育祭の伝統がコロナによって断ち切られることがあってはなりません。そこで本校では、LHRと総合的な探究の時間を活用し、応援、チア、仮装、パネルについての学習活動発表会（撮影会）を実施することとしました。

9月15日、16日は、色別時差登校により各色2時間の練習を行いました。生徒たちは限られた時間を有効に使えるように、事前に連絡を取り合いながら集中して練習していました。生徒たちからは発表会にかける意気込みと真剣さが伝わってきました。

9月17日も色別時差登校とし、「赤」「青」「黄」「紫」の順で発表会を行いました。どの色どの部門からも、届けようとしてきたメッセージや懸けてきた意気込み、また、気迫さえ感じることができました。生徒たちは他の色の発表をお互いに見ることはできませんでしたが、同じ色同士の中で、お互いに取組の成果を確認し称え合うことができました。PTAの皆様のお力により、発表会の様子を撮影することもできました。PTAよりご案内が届いていると思いますので、是非ご覧になってください。

教育活動への制限が刻々と厳しくなる中、愚痴や不満を述べるのではなく、自分たちが置かれた状況をしっかりと理解し、自分たちができることを必死に考え、可能性に懸けて真摯に取り組み、一致団結して最後までやり抜いた大船高校の生徒たちは大変立派であったと思います。当日は発表会（撮影会）となりましたが、六国総務や実行委員会のリーダーシップの元、最初から最後まで取り組んできたことのすべてが、第34回六国祭（体育祭）であり、その取組により39年間続いた伝統を、来年度に引き継ぐことができたと思います。頑張ってくれた六国総務、実行委員会、そしてすべての生徒たちに対して、心より感謝と敬意を表したいと思います。そして、生徒たちの活動に対してご支援とご協力いただきました保護者の皆様、本当にありがとうございます。コロナ禍をマイナスに捉えるのではなく、生徒の成長につながっていくように、引き続き、教職員と共に教育活動をしっかりと考え、取り組んでまいります。